

2022. 4. 17 (日) Iコリント15:1~11

15:1 兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。

15:2 私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。

15:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

15:4 また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、

15:5 また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。

15:7 その後、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに現れました。

15:8 そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました。

15:9 私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。

15:10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが。

15:11 とにかく、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。

<説教>

本日は私たちの主、イエス・キリストの復活日（イースター）です。

およそ2000年前、十字架にかかって〈私たちの罪のために死なれ〉(3)、墓に〈葬られた〉(4)主イエス・キリストが、「週の初めの日」(日曜日)の早朝、〈三日目によみがえられた〉(4)のです。

それは〈聖書に書いてあるとおりに〉(3,4)、〈聖書に書いてある〉神のご計画のとおり、お約束のとおり、神がなさった神のみわざでした。

父なる神が、私たち罪深い人間を罪の故の永遠の滅びからお救いになるために計画なさり、お定めになり、〈聖書〉によって人間に前もってお示しになっていたとおりに、です。

御子イエス・キリストが、人として肉体をもってこの世に来られ、人間としても父なる神に完全にお従いになって、〈自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われ〉(Iペテロ 2:24)、私たちの代わりに罪の刑罰を受けてくださり、また私たちの罪のための〈宥めのささげ物〉(Iヨハネ 2:2、4:10)としてご自身を神にお献げになりました。

この御子キリストの完全な従順(それが即ち「義」ということです)を父なる神は喜んでお受け入れになり、完全な従順に対する(言うなれば)正当な報酬として、先ずキリストを〈よみがえら〉せなされたのです。

イエス・キリストは十字架の死によって、(私たちの代わりに) 罪の完全な「清算」を済ませた後、もう二度と罪に対する神の怒りを、永遠の地獄の刑罰を受けることのない「永遠のいのち」を持つ人間として、肉体をもって〈よみがえら〉されたのです。

そのようにしてキリストは人間として—永遠に変わらず神の御子(即ち神)であられることはもちろんです(念のため)—〈よみがえられ〉、死に打ち勝たれました。

罪深い私たち、すべての人は、ただこの〈福音〉(1,2)を信じて神から罪赦され、神の怒りから、永遠の地獄の刑罰を免れさせていただき、たましいも肉体も救われるのです。

神が、イエス・キリストにある「罪の赦し、からだのよみがえり、永遠のいのち」を、〈福音〉を信じる私たちに、一方的に、無償でくださるのです。

神がキリストを〈よみがえら〉せなされたのは、〈福音〉を信じる人間(私たち)を、キリストと同じように永遠のいのちに〈よみがえら〉せるためでした。

〈聖書に書いてあるとおり〉のことに従えば、私たち人間は誰もこの〈福音〉を信じることなくして、永遠のいのち、キリストのよみがえりに与ることはできず、本当の意味で死に打ち勝ち、死を乗り越えることはできません。

たとえ〈福音〉によらない何かの方法で死の恐怖を打ち消したり、必ず死ぬことは考えないようにしたり、また何らかの明るい「死後の世界」を思い描いたりしたとしてもです。

そんな言わば「無駄な抵抗」をするより、〈罪の報酬は死〉(ローマ 6:23a)なのですから、先ず〈福音〉を信じて、罪の赦しを神から受け、〈私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのち〉を〈神の賜物〉(ローマ 6:23b)として受けるべきなのです。

このように、使徒パウロがコリント教会の〈兄弟たち〉に〈改めて知らせ〉た〈福音〉は、すなわち〈最も大切なこととして伝えた〉(3)ことは、私たちの罪のためのキリストの「十字架の死」と「よみがえり」という出来事、厳然たる事実でした。

それは私たちも、今もまた今後も生涯にわたって〈最も大切なこととして〉先ず聞き、信じ、また人々に〈伝え〉るべき〈福音〉(の中心、根本、基本)です。

そしてパウロはここ(Iコリント 15章)では中でも特にキリストが〈よみがえられたこと〉に力点を置いています。

それは〈よみがえられた〉キリストがどれほど数多くの弟子たち、信じる者たちに〈現れた〉かを記していることからとも言えると思います(5~8)。

実はこのときコリント教会の〈兄弟たち〉の中に、「キリストは死者の中からよみがえられた」と(パウロによって)宣べ伝えられているのに、「死者の復活はない」という人たちがいたのです(12)。

ここに挙げられた有名、無名の人々は、キリストが〈よみがえられたこと〉の証人です。

キリストが十字架で死なれた時は、〈ケファ(ペテロ)〉(5)以下、一人残らず皆が〈からだを殺しても、たましいを殺せない者たちを恐れ〉(マタイ 10:28)、イエスを裏切り見捨てて逃げてしまいました。

しかし、〈よみがえらえた〉キリストが〈現れ〉てくださり、そのキリストがペテロを始め彼らに〈死んでも生きる〉(ヨハネ 11:25)ご自身のいのちをお示しになり、人を恐れず、〈からだもたましいもゲヘナで滅ぼすことができる方〉(同)神を恐れ愛するように新しく創り変えてくださいました。

それで彼らは、〈よみがえらえた〉キリストの生き証人として、人も死も恐れず〈福音〉

を大胆に宣べ伝え、中には後に殉教するようになる者もいるようになったのです。

そして〈よみがえられた〉キリストが〈最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました〉(8)とパウロは証言します。

〈月足らずで生まれた者〉とは、直訳的には「早産の子、未熟児」のことですが、それは、「生きていてもほとんど死んでいた者」というような意味合いでしょう。

つまり〈よみがえられた〉キリストと出会う前のパウロは、キリスト・イエスを信じないだけでなく、全力でキリストに敵対し、〈神の教会を迫害したのです〉(9)。

だから、〈使徒〉として召して頂いた今でも〈使徒の中では最も小さい者〉、〈使徒と呼ばれるに値しない者です〉(9)と心から謙遜にパウロは告白します。

そんなパウロが今や〈ほかのすべての使徒たちよりも多く働いた〉と言うのは、自分の力・功績を誇っているのではなく、ただひとえに〈神の恵みによって〉であり、〈働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのです〉だと証言しているのです(10)。

ここでパウロが言う〈神の恵み〉こそパウロも神から〈受けた〉(3)〈福音〉であり、殊にキリストが〈よみがえられたこと〉であり、〈よみがえられた〉キリストご自身です。

かつては悪魔のしもべとして悪魔に仕え、ひたすら悪魔の意思にかなう働きをし、罪の中に死んでいた (cf.エペソ 2:1 ~) パウロをキリストのしもべとして神に仕えて神のみこころにかなう働きをする者に創り変え、死からいのちへ、暗闇から光に移してくださったのが、〈神の恵み〉の力であり、〈よみがえられた〉キリストの力でした。

〈よみがえられた〉(3)とは現在も続いていることを表す時制で書かれています。

ですから、〈よみがえられた〉キリストは今日も生きて働いておられ、今、私たち一人一人に対して〈無駄にはなら〉ない力をもって臨んでおられるのです。

私たちは今日〈改めて〉その〈神の恵み〉、〈よみがえられた〉キリストと出会い、〈信じたのです〉(11)。